

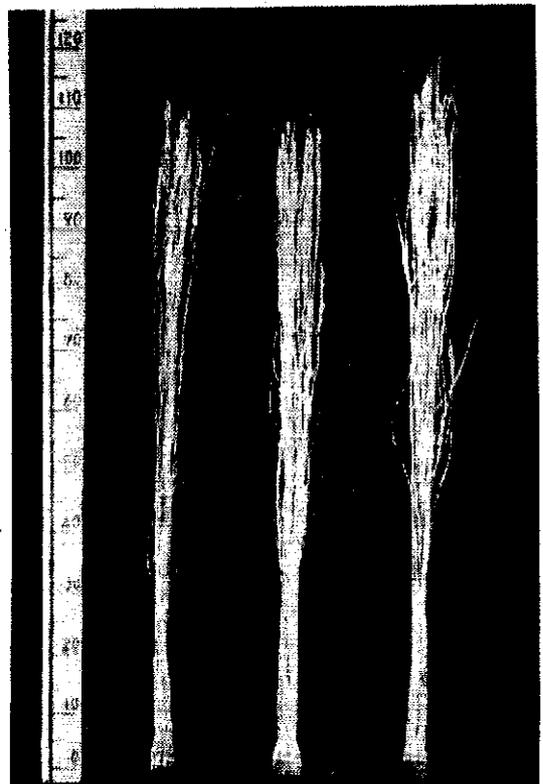
水稻新品種「朝光」について

松沢正知・前田博文・横山与美行

1 まえがき

中国山地水稻の早生種は、分けつ期間から穂ばらみ期にわたって梅雨の影響を強く受けるのでいもち病の発生が多く、また、節間伸長期が寡照のために稈の充実が不良になって倒伏しやすい。したがって、この地帯ではいもち病に強くて強稈性であることがとくに要求されてきたが、このたびこのような要望にこたえ得る新品種「朝光」を育成したのでその概要を報告する。

2 来 歴 この品種は昭和28年農林省中国農業試験場において、Ta820 (Tadukan × 農林8号¹)



フジミノリ 朝光 さかえ

第1図 朝光の草姿

を母とし、陸羽132号を父として交配し、さらにその雑種第一代を父とし、陸羽132号を母として戻し交配を行なった雑種第2代種子を、昭和31年度に広島県立農業試験場高冷地支場で配付を受け選抜固定をはかり、昭和35年度に朝承1～3号の系統名を付して、県内各地で地方適否を検討した結果有望と認められたものである。昭和41年1月「朝光」と命名されて県の奨励品種に採用された。育成世代は昭和41年において雑種第12代である。

3 形態的特性 陸羽132号を短稈化した草姿を呈し、稈の長さはフジミノリ程度である。穂数はや

第1表 いもち病菌の主要 race に対する品種の反応
(昭39~40年 広島農試 中村啓二氏)

判 別 品 種	T ₂ (広62~20)	C ₃ (長-87)	C ₆ (広63-106)	N ₁ (北373)
Te-tep	R	R	R	R
Tadukan	M	R	R	R
烏 尖	S	R	R	R
P i 1	S	R	R	R
P i 3	S	R	R	R
朝 光	S	R	R	R
長 香 稻	R	R	S	R
関 東 5 1 号	R	S	S	R
ほまれにしき	S	R	R	S
農 林 2 2 号	S	S	S	S

第2表 生育及び収量 (高冷地支場)

栽培 別	品 種 名	試験 年度	出穂 期 (月 日)	成熟 期 (月 日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	倒伏 多少	病 虫 害			収 量		千粒 重	品質
									葉い もち 病	穂首 いもち 病	カラ バエ	玄米重 (kg/a)	比較 比率 (%)		
標肥	朝 光	昭35 37年 平均	8.19.12	9520.2	22.5	ビ~ム	△	△	△	△	60.8	101	23.3	上下	
	⊕ 銀河 1 号		7.28.10	9520.0	22.2	中~ビ	ビ~少	△~ビ	△~中	60.4	100	23.1	中上		
	⊕ さかえ		8.10.21	9519.8	18.3	△~少	△~ビ	△~少	△~ビ	59.0	98	24.6	中上		
多肥	朝 光	昭36年	7.27.9	9820.9	22.0	ビ	△	△	△	55.7	107	22.9	上下		
	⊕ 銀河 1 号		7.27.9	10020.1	24.9	多~中	ビ~少	△	△~少	52.2	100	23.4	中		
標肥	朝 光	昭39 40年 平均	7.31.10	8820.1	24	△	△	△	△	59.9	91	22.2	上下		
	⊕ フジミノリ		7.24.9	9120.1	17	△~中	△~少	△~少	△~ビ	65.6	100	22.9	中上		
	⊕ ヤマセニシキ		7.29.9	8619.2	24	少	中	少	△~ビ	59.1	90	22.6	上下		
	⊕ さかえ		8.10.23	9320.7	21	△	△~少	△~ビ	△~中	57.0	87	23.3	中		
直播	朝 光	昭40年	8.8.9	8219.9	460	△	△	△	△	50.0	100	22.0	上下		
	⊕ フジミノリ		7.30.9	8320.7	410	中	△	△~少	△	50.0	100	22.5	中上		
	⊕ ヤマセニシキ		8.4.9	7717.9	538	△~中	中	中~多	△	40.8	82	21.9	上下		

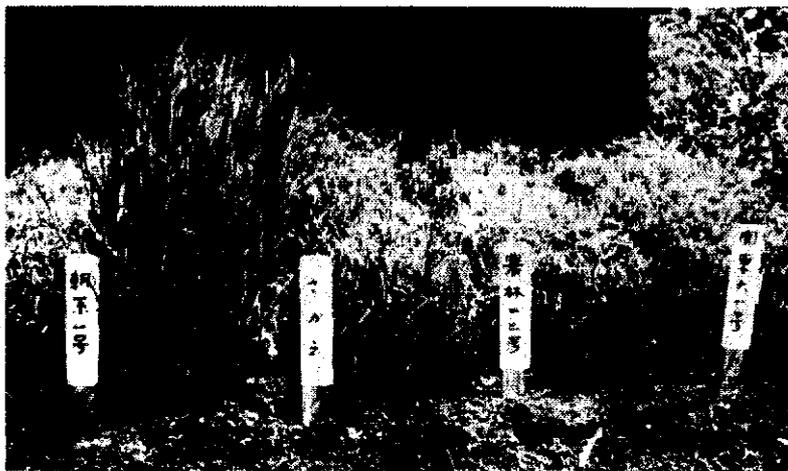
直播の穂数はm²当り

や多く、稈は太くて強稈であるが穂揃がやや悪い。籾先に短芒があり熟色は良好である。粒丈はヤマセニシキよりもやや長く、粒揃が良好である。玄米は光沢があって品質は良好であるが、年によって腹白が発生することがある。

第3表 特 性 調 査

品 種 名	稈の太	稈の剛	芒の柔	芒の多	芒の少	芒の長	芒の短	芒又は 稈先色	稈色	粒疎	着密	脱難	粒易	稈の 糯別
朝 光	大	やや剛	△	短	短	紅	白	中	難	難	難	稈		
⊕ フジミノリ	大	剛	△	短	短	紅	白	中	難	難	難	稈		
⊕ ヤマセニシキ	中	中	△	短	短	紅	白	中	難	難	難	稈		
⊕ さかえ	中	中	少	短	短	白	白	中	難	難	難	稈		

4 生態的特性 出穂期、成熟期はフジミノリとさかえの中間である。いもち病には第1表のようにPi-1程度のRace反応を示して強く、第2図のようにほ場抵抗性も強い。また、紋枯病、ごまはがれ病



第2図 ほ場抵抗性検定

第4表 特性検定成績（昭37年 島根農試赤名分場）

品 種 名	冷水抵抗性	穂首いもち病	カラバエ耐虫性
朝 光	強	極強	やや弱
Ⓔ 農林17号	やや強	中	弱
Ⓔ フジミノリ	やや強	やや強	極強
Ⓔ コシヒカリ	中	弱	やや強

に強くて下葉の枯れ上りが少なく、耐冷性も強いが、カラバエには弱く農林17号程度である。収量はフジミノリに比較して場内試験ではやや低収であるが現地試験では同収程度であり、ヤマセニシキ、さかえよりも多収である。

適地 広島県下の中山間部に適し、いもち病常習発生地、秋落田、湿田などの不良条件の地域においてとくに適する。

5 栽培上の注意

- (1) 早植およびやや密植によって早めに茎数を確保し、穂揃をよくすれば安定した収量が得られよう。
- (2) 湿田および秋落田では慣行よりもちっ素肥料をやや多めに施用しないと多収は望めないであろう。
- (3) カラバエ耐虫性が劣るので発生情報に注意し、発生が予想される年次においては予防を励行すること。

Summary

On the New Paddy Rice Variety "Asahikari"

Masatomo MATSUZAWA, Hirofumi MAEDA and

Yomiyuki YOKOYAMA

A new paddy rice variety "Asahikari" was developed from the backcross between Rikuu No. 132 and (Ta820×Rikuu No. 132) BF_1 made at the Chugoku Agricultural Experiment Station in 1956. Ta820 was developed from the backcross between Taddukan and Norin No. 8 BF_4 . This B_1F_2 hybrid was distributed to Hiroshima Agricultural Experiment Station, High Land Cool-Climate Branch Station in 1956.

Asahikari was selected primarily on the basis of its blast resistance, lodging resistance and early maturing. It was adopted as a recommended variety in Hiroshima Prefecture in 1966.

The maturing time of Asahikari is slightly later than that of the earliest variety, Fujimino. This variety is shorter in culm length than Rikuu No. 132. The number of panicles per plant and growth type of Asahikari are similar to those of Rikuu No. 132. This variety is very resistant to leaf-blast, leaf-spot and sheath blight, but it is not so resistant to stem-maggot.

Accordingly, this new variety would supply reliable yields even under unfavourable conditions at paddy fields in the mountainous regions if an early seasonal cultivation and close spacing method are adopted.